

ところで、聖書に精通し、また多くの口伝律法にも詳しくあったラビ・アキバ。
非常に聡明な彼が、なぜバル・コクバのような人物をメシアと勘違いしてしまったのでしょうか？
それをうまく説明することが出来るかもしれない たとえ話があります。
これは、イエスを信じるようになったラビが語ったと言われているたとえ話です。

1人の男が馬車に乗って旅をしています。軽快に走っていたのに、ある時から突然バランスが崩れて、揺れが激しくなって、不安定になって、乗り心地が悪くなって、腰が痛くなって。
「どうしたんだ？何が起こったんだ？」馬車を止めてよくよく調べると、4つあるはずの車輪の1つが外れてなくなっていた。つまり、三輪車状態で進んでいたんです。「しまった！これでは乗り心地が悪いはずだ。失われた車輪を見つけなければ。」そして、前方に向かって走って捜し始めた。

このラビは言うんですね。「1人の男とはユダヤ人。ユダヤ人を乗せている馬車には4つの車輪があるが、4つの車輪とはアブラハム・モーセ・エリヤ・メシアであるナザレのイエスだ。」

アブラハムはアブラハム契約/ユダヤ人の契約の土台。モーセは律法の代表。エリヤは預言者の代表。モーセとエリヤの2人で旧約聖書の代表。その旧約聖書が指差して来たメシアこそがイエスである。この4つが揃っている時、ユダヤ人は安定して、永遠に向かって旅を続けることが出来たんですね。

ところが、車輪が1つなくなった。それは、メシアとして来たイエスです。ユダヤ人はイエスを拒んでいるからです。車輪がなくなった。当然それが原因で不安定になり、混乱し、腰を痛め、そして居心地が悪くなり、次から次にトラブルが起こるようになって行ったわけですね。
だから、車輪が必要なんです。車輪を失ったということが、ユダヤ民族の不幸の根本原因なんです。車輪がないことが、ユダヤ民族が祝福を受け損なっている大きな理由、理由の全てと言ってもいいでしょう。

そこで車輪を見つけるべきなんですよ。普通、車輪は前方ではなくて後ろにあるんです。だって、ずっと前に進んで来て途中でなくなったんだから、辿ってきた道のどこかにあるはず。つまり、失われた車輪であるメシアは過去に捜すべきなのです。昔に捜すべきなんです。既にメシアは、昔もうやって来たのです。
ところが、イエスがメシアであるはずがないと心の目を閉じているので、ユダヤ人たちは未来にやって来るであろうメシアを待ち望んでいる。だから、前方に向かって捜しに行くんですね。

ラビ・アキバのような賢い人が、なぜバル・コクバをメシアと勘違いして受け入れてしまったのか？未来にやがて来るメシア。メシアは必ず将来やって来る。今まで来なかったけど、これから来るんだと思い込んでいたことが決定的理由です。

しかし、本物のメシアは既に来たのです。そしてAD30年に十字架に掛かり、ユダヤ民族と異邦人の罪を背負って、身代わりの罰を受けて死んでくださいました。そして墓に葬られ、3日目によみがえったメシア。このイエス・キリストこそ本物のユダヤ人のメシアであり、あなたの救い主です。

ユダヤ人がユダヤ人のメシアを受け入れるためには、自分たちの固い心が粉碎される必要があるんですね。

ユダヤ人たちはある苦難の期間を通して、本物のメシアを請い求めるようになるのです。
その苦難の期間は7年間続きますが、これを患難時代と言うんですね。
これはまだ来ていません。これから来ます。

患難時代、ユダヤ民族と全人類がこの中に入っていきますが、特にユダヤ民族にとって患難時代の目的は、イエスをメシアとして受け入れるためなのです。
今、時代はそこに向かって刻一刻と進んでいるんですね。

ユダヤ入門シリーズをずっと続けていくことによって、終末預言にも結び付けられると思います。
どうぞ、末長くお付き合い頂いたらなと思います。
ではまた『ごうちゃんねる』でお目にかかりましょう。さよなら!!